

フラワーサロンかきもと (有限会社 かきもと)  
取締役 柿本 敦子 さん

お花の魅力で暮らしや心を華やかに〜一輪一輪に思いやりを〜

今回のがんばってますは、長崎市の田上地区に店を構え、冠婚葬祭の花装飾からブーケやアレンジメントなどのフラワーギフトまで、様々なシーンで彩りを添える生花を取り扱うフラワーサロンかきもとの柿本敦子さんをご紹介します。



老 舗花屋を引き継ぐ4代目として

「長崎花市場」の立ち上げメンバーでもある曾祖母のキヨさんが天枰棒に花を入れてオランダ坂周辺を売り歩いてきたことからスタートした同店は、昭和50年に花の卸小売業を開始し、平成3年に法人化。市内の様々な場所に移動した後、現在の田上地区に店を構えて、30年以上経つという。代々の家筋で花屋を経営し、4代目となる柿本さんは、「物心ついた頃から、お花に囲まれた環境で育ちました。小学生時代には両親が営む花屋で店番をしたりしていたんです」と話す。地元の花屋で修行を積むなど実務経験を経て同店へ就職し、現在は柿本の姓を継いでくれた夫の如祐さんと二人三脚で花屋経営に奮闘している。

お花のことならお任せください！お祝い事から仏事までアレンジメントや花束、生花スタンド、観葉植物等を店頭で販売するほか、市内配達を行なう同店。また、企業や病院向けにお花を定期的に届けてくれる配達サービス「お花の定期便(サブスクリプション)」も提供している。

暮 らしの中にも気軽に花を楽しんでほしい

近年、花屋の業界ではコロナ禍で結婚式やパーティーのようなイベントが延期・中止されたことにより、花が廃棄される「ロスフラワー」が問題になってきているという。そういったロスフラワーを少しでもなくすため、日常生活の中に気軽に花を取り入れようとする取り組みを推進したいと話す柿本さん。

「お花には、リラクゼーション効果やストレス緩和など、日常生活の質を向上する癒し効果があると思います。気軽にオフィスや自宅など暮らしの中にお花を取り入れて、長く楽しんでいただけたら嬉しいですね」

また、今後は地元企業とのコラボなどギフト商品にも力を入れていきたいという。「市内のソーセージ屋さんやコラポした母の日ギフトでは、一つひとつ手作りの造花やソープレフラワーを添えてソーセージとセットで販売しました。お花は枯れること

「お客様のご予算・ご要望に応じて様々な場面で活躍するお花を取り揃えています。5月は母の日に感謝を込めて、8月はお盆にお供え物として、年末はクリスマスや正月などお祝い事に。季節のイベントや行事に合わせて自信を持ってお花を提供しています」

花

育を通して、地域に根差したお花屋さんにお花のプロフェッショナルとして、手入れ方法や長持ちさせるコツなど、顧客に寄り添いながら、提案やフォローを心がけているという柿本さん。また、厚生労働省認定の「フラワー装飾一級技能士」の資格を生かし、同検定の補助員や、地域の小・中学校や高校でフラワーアレンジ教室の先生としても活動する。「子供たちには、花や緑に親しみ、育てる機会を通して、やさしさや美しさを感じる心を育ててほしいです。教室では楽しい雰囲気を大切にしているので、生徒たちと



①店頭で並ぶ、枯れないお花「ソープフラワー」  
②オランダ坂周辺で花を売り歩いていたという初代のキヨさんの貴重な写真  
③花束やブーケ、生花スタンドなどご予算に合わせて対応できます！  
④柿本さんご夫婦。「お花のことならお気軽にどうぞ」

お花のことなら！  
フラワーサロン かきもと



Instagramにて  
情報発信中！

Information



フラワーサロンかきもと  
(有限会社 かきもと)

〒851-0251 長崎市田上 2-6-7

☎ 095-827-2235

FAX 095-821-8413

HP <http://furakaki.chu.jp/>

営 9:00~18:00

休 無し